

グレート・コミッション

吉田隆・恵利子宣教師を支える会

第101号 2024年11月15日発行

発行：グレート・コミッション 吉田隆・恵利子宣教師を支える会 郵便振替：00910-3-210061 グレート・コミッション
事務局：〒606-8274 京都市左京区北白川大堂町4-3 京都キリスト福音教会内 FAX 075-791-3488

ミャンマー

世界は平和と逆行しているようです。ウクライナ対ロシア、イスラエル対中東諸国、中国対近隣諸国、北朝鮮対韓国・日本・アメリカなどで、すでに戦争が起こっているところもあれば、これから起こるかもしれないところがあります。そして、ミャンマーは今なお内戦が続いている国です。

ですから、国軍によって戒厳令が発令されたり、国軍と少数民族武装組織や民主派勢力との衝突が起きています。中心的な都市ヤンゴン等以外への外国人の渡航は推奨されていません。

吉田 隆

ミャンマー 吉田 隆.....	1-2
PAM(ペンテコステ・アジア宣教)大会/ JJCF(ジャカルタ日本人クリスチャンフェローシップ)	
訪問報告 吉田 隆.....	3
執り成しの祈りの力 吉田成就.....	4
宣教と霊的な戦い② 吉田恵利子.....	5
グレート・コミッションを読んで 岡部光雄.....	6
感謝とご報告・祈りの課題.....	6

ミャンマーの近況



メサイとタチレクの国境

1990年に私たちが良く知るアウン・サン・スー・チー氏が率いる国民民主党（NLD）が圧勝しましたが、政府は政権移植を拒否しました。スー・チー氏はここから3回、計15年間に亘る自宅軟禁に置かれました。2015年に行われた総選挙で、スー・チー氏が率いるNLDが大勝しました。ミャンマーにおいて約半世紀ぶりに国民の大多数の支持を得て誕生した新政権は、民主化の定着、国民和解、経済発展のための諸施策を遂行しました。

2020年の総選挙で、再びアウン・サン・スー・チー議長率いるNLDが再び大勝しましたが、2021年2月1日、ミャンマー国軍が、ウィン・ミン大統領、アウン・サン・スー・チー国家最高顧問らを含む政権幹部らを拘束。非常事態宣言を発出し、全権を掌握し、2月2日には、国軍司令官を議長とする国家統治評議会を設置しました。その後も非常事態宣言を延長しています。

国軍は今年2月に徴兵制を導入すると発表し、若者たちを集めようとしたのですが、これに反発して民主派武装勢力に参加をする若者も増えているそうです。国軍は、ミャンマーの路上で若い人々を見つくと、その人たちを捕まえて連れて行きます。その後40日間訓練した後、前線に送り込みます。18歳以上35歳以下の男女はどこでも捕らえられて連れていかれるのです。男子は兵役のため、女子は慰安婦的な役目を負わされます。

市民はパニックに陥っています。国軍に反発する勢力も爆発事件を起こしたり、国軍側はあちらこちらに爆弾を投下したりしています。その結果民家が爆破され、一般市民が犠牲となり、社会の不安は絶えません。

物価が高騰し、電気代も3倍に値上げ、ガソリンも不足しているそうです。薬も不足しているため病気の治療を受けることができない中、7月にはコレラが流行しました。

こうした状況下において、多くの人々が近隣のタイやインドを含めて、マレーシアやシンガポール、そして日本にまでも脱出をしたいと願っています。

教会の様子

こうした非常に不安定で危険な社会情勢、敵が外国ではなく国内に存在するという状況の中において、キリスト教会の働き人たちは、一人でも多くの人々に福音を宣べ伝えようとして前進しているのです。

私の友人で今年6月に一緒に日本の諸教会を巡回訪問したマレーシアのスタンレー牧師は、コロナ禍で働きが制限され、アジア諸国を訪問できなかった時、オンラインのズームで国々のリーダーたちと連絡を取



り、励ましを与えてきました。そして、コロナが解禁になり外国への訪問が可能になってきましたが、上記のような事情でミャンマーに行きたくないと訓練を与えることはむずかしかったのです。

しかし、主がスタンレー師に知恵を備えてくださいました。彼らが短期間だけ国境を越えて、タイに来て会うというプランです。ミャンマーの人々がビザを取得すれば、限定された期間、国境の町であるタイのメサイというところの近郊にだけ滞在できるのです。

ミャンマー側の国境の町であるタチレクには、タイに逃げたい大勢のミャンマーの人々が集まって来ます。この町で牧会をしているぶどうの木教会のM牧師が中心となって準備が進められました。当初24人が訓練を受けることになっていましたが、3人はビザを取得することができず、2人は直前にあった大雨の関係で参加することができず、19人のリーダーたちが集まりました。

今回は、すでに聖書教育を終えたリーダーたちに聖霊の力と励ましを与えることを目的として、集中的な講義と祈り、ひとりひとりのための油注ぎの祈りが行われました。

マレーシアからスタンレー牧師ともう一人ガイ牧師、そして私の3人が聖書のみことばと経験を通して、

キリスト教に対する迫害と、軍事政権によって苦しめられているミャンマーのリーダーたちに、聖霊による励ましを与えることができました。

参加者の一人であるピュー師は孤児院で育った姉妹ですが、イエス様によって力を受けて大胆な働きを展開しています。ゴールドン・トライアングル地方の奥深い村で開拓の働きをしています。福音伝道のチームが村に入って奉仕する中、新しくイエス様を信じた人々が最近水のバプテスマを受けました。いくつかの村で小さなセルグループによるアウトリーチを始めることができるように祈っています。



PAM (ペンテコステ・アジア宣教) 大会

恵利子と私(隆)は、9月9日から16日にかけてインドネシアのジャカルタで行われたPAM(ペンテコステ・アジア宣教会議)に出席させていただきました。久しぶりに訪問したインドネシアの首都ジャカルタは非常に大きな都市と変化していました。

世界最大のイスラム人口を誇るこの国ですが、クリスチャンの数も大きく伸びているようです。今回のお世話をしてくださったインドネシア・ペンテコステ教団の教会数は、全インドネシアに約16,000の教会があるそうです。(ちなみに全日本の教会数があらゆる教団を合わせて8,000に満たないと言われています。)

今回の大会の一つの特徴として、ビジネス・アズ・ミッションについて取り上げられたことがあります。アジアには、政府の法律によって公にキリスト教の宣教が許されていない国が多くあります。特にそうした国で働きを進めるために、ビジネスを用いた伝道を通して、福音が前進している証を聞くことができました。



また、それぞれの地域教会が世界宣教に宣教師たちを積極的に送り出して行くことを促進するためにシンポジウムが行われました。

今回のPAMには16か国から132人の出席者が集いました。

JJCF (ジャカルタ日本人クリスチャンフェローシップ) 訪問

PAMでの奉仕の後、ジャカルタJJCF(ジャパニーズ・クリスチャン・フェローシップ)を訪問させていただきました。こちらの教会には随分前に、松本章宏師が牧会していらした時に一度訪問させていただいたことがあります。今回は、私が関わっているKBI(関西聖書学院)出身者である高橋央也師・恵師ご夫妻が昨年牧会の責任を負われるようになったこともあり、ビザの更新やマラリヤに感染したり困難が続いているとお聞きしていましたのでお尋ねしました。

そこで、やはり昨年日本から派遣された山中宣教師のご家族ともお会いすることができ、最近のご様子と近い将来の予定などをお聞きすることができました。



私たちの家族が宣教30周年を迎えました。私は、宣教地であった香港で生まれました。ですから、家族の中で私だけは、まだ29周年です。それから現在に至るまで、みなさまのお祈りに支えられてきたことを感じずにはられません。

今から3年前、私がKBI（関西聖書学院）に在学していた1年生の時の話です。ある3年生の先輩が、一度だけタイミングが合ったので、車で私を送ってくださったことがありました。先輩の母教会と私の母教会とは、非常に近い場所に位置していました。

普段電車を使っていたので、車では普通の到着予定より、かなり早く着きました。それで「ちょっと僕の教会見に行きますか？」と先輩が提案して下さいました。折角なので見学させてもらうことにしました。「車を停めるので、先入ってください」と言われ、先に教会に入ると、事務の方とばったり会いました。すると「え、あなた誰？」みたいな空気になったので、「あ、私はKBIの1年生で先輩に見学に連れてきてもらいました」と釈明。すると後ろから、先輩もやってきて「あー彼、宣教師の吉田先生の息子さん。成就くんです。ちょっと見学」。

事務の方は「あーそうなんですね、ごゆっくり」と言って去って行きました。しかし、すぐまた戻ってきて、こう言いました。「成就くん、私、あなたのこと祈ったのよ！」と、いうのは、私の両親が中国宣教で香港にいた時のことです。父がニュースレターに祈祷課題を書いて日本に送りました。短い祈祷課題です。「妻がもうすぐ出産しますが、経過があまりよくありません。お祈りください」それを読んで、その方は祈ってくれたと言うのです。生まれる前後のことなど、普通は記憶にないはずですが。しかし私は、ピーンときまし



成就29才誕生日インターンをしている八尾福音教会にて

た。

小学生の時、「自分の生まれた日」について調べる宿題があったのです。それで、私は自分がどのように生まれたのかを、両親に尋ねていたのです。実は、私が香港で出産された時、大変危険な状態だったそうです。出産前から様々な問題があったのだそうですが、いざ出産という時、お医者様のミスで私は仮死状態で生まれていたのです。この歳になって想像すると、なんと恐ろしい状況かと思います。しかし、神の恵みと憐れみでしかありません。何とか息を吹き返し無事に成長しました。

そういうわけで、ピーンと来たのです。嗚呼、父のニュースレターを読んで僕の為に祈ってくださった方がいたんだ。だから、あの時守られたんだ。今日初めてお会いした事務の方。生まれる前ですから、当時は僕の名前も知らなかった。でも、その話を聞いて「神様はその祈りを用いてくださったんだ」と肌で感じました。

もちろん、この記事を読んで下さっている皆さんがいつも祈って下さっていること、それに守られていると常日頃感じています。私の人生には、後少しで死んでいたかもしれない、という経験が幾つかあります。しかし、ギリギリのところをいつも神様に守られてきました。神様が明らかにしてくださった、背後にある執り成しの祈りの一例を今日は紹介させて頂きました。まだまだ、私の知らないところで、私や家族の為に祈って下さり、神様が用いて下さっている執り成しの祈りがあると思います。どうぞ、これからも私たち家族のことを覚えてお祈りいただくと幸いです。



成就香港で1才に成長

前回ご紹介させていただきました宣教地香港での霊的な戦いについて、続きを書かせていただきます。

宣教地に渡る以前に、ウィリアム・ケアリー、アドニラム・ジャドソンやハドソン・テラーなどさまざまな先人の宣教師のお証や伝記に記されている事柄を学び、その軌跡を読んでいましたが、私たちの場合も実際に困難が次々と起こって来ました。

香港に着いて広東語を学び始めた頃のことでした。同じアパートに、挨拶を交わして親しくなった素敵な可愛らしいおばあさんがいました。よくエレベーターで一緒になる方でした。

ある日、いつものように話をしていると、内容が難しくなり返事に困りました。すると、「えっ、あなたは何人ですか?」と問われました。「日本人です」と答えた途端、ニコニコしていたおばあさんの顔が一瞬のうちに蒼白となり、その目の瞳には青い炎がメラメラと燃え上がり、固く口を閉ざして、ガタガタと震えているように見えました。エレベーターが一階につき、ドアが開くなり、逃げる様に走り去って行きました。

毎日のように顔を会わせていたおばあさんでしたが、それ以来一度も会うことはありませんでした。最初に親しくなって挨拶や話をするようになった人だっただけに、私は大変驚き、忘れられない出来事となりました。

日本人が戦争で中国香港の方々に酷い事をしたという事は、あらかじめ表面的には知ってはいました。しかし、現地に実際に行き、その酷い出来事の内容をより深く知ることとなりました。日本に於いては、全く教えられていないこと、現地の方々の反日感情の深さを知ることの始まりでした。

香港に行って1年余りが過ぎたころ、第四子（成就）を身籠っていた私は、切迫早産になり、香港の地元の方々の病院に入院することになりました。そこは、日

本の医療システムとは異なり、また病院内で自分たちの写真を撮るのは禁止されていました。

切迫早産は、動かず安静に寝ている必要があります。その病院の看護婦さんの多くは良い方々でしたが、一人のある看護婦さんは、私が日本人だとわかると急に、「治療方針が変わったので、起きて廊下を何往復も歩きなさいと」言って、ベッドからひきずりおろし無理やり歩かせました。そんなはずはない、と抵抗したのですが……。

お腹を押さえながら歩いていると、突然私の担当の看護婦さんが現れて、窮地を救ってくれました。私が歩いているのを見つけるやいなや烈火のごとく叱りつけながら直ぐにベッドに戻されました。歩くように強制したあの看護婦さんの姿はありませんでした。その看護婦さんは、現れては食事の中に虫を何度も混入させたり、不衛生なことをしたり、更にもっとひどく恐ろしいことを次々として来ました。

私の担当の看護婦さんは「私の指示にだけ従うように、他の看護婦さんの指示には決して従わないように!」と言って守ってくださいましたが、恐ろしいことをする看護婦さんは、隙を見ては、次々と奇妙な恐ろしいことをしてきました。

戦争などにより、大切な家族を日本人によって亡くされた方々の苦しみや恨みを知ることは、実際に架け橋としてこの地で宣教をして行くためには必要なことでした。その後続く様々な困難を含め、神様が私の心を守ってくださり、憎しみや恨みなどを持つことなく、本当に日本人のひとりとして申し訳ない気持ちでいっぱいでした。神様の愛を伝える宣教の働きのために執り成してくださる方々のお祈りに守られて、お腹の赤ちゃんも命が守られて、この地で働きに携わることができました。

吉田恵利子クリスマス個展 V

2024年 11月23日(土)~12月5日(木) 11時~17時 (金曜日はお休み)

ミニコンサート 11月28日(木) & 12月5日(木)

ギャラリー **楽七庵** & Café IORI

〒520-0113 滋賀県大津市坂本6丁目26-45 TEL 077-548-8554



吉田恵利子クリスマス個展 in Kyoto I

2024年 12月10日(火)~12月14日(土) 11時~17時 ミニコンサート 毎日 12:30&15:30

救世軍京都小隊ヴォーリズホール 〒600-8005 京都府京都市下京区富小路通四條下る徳正寺町37 TEL:075-343-3726

グレイト・コミッションを読んで

毎回興味をもって読ませてもらっています。

全世界には200近くの国がありますが、国の中にも言語や人種、習慣、気候など色々の違いがあります。そんな環境のどこへでもイエス様は福音を伝えよとの世界宣教の使命を教会に残して天に帰られました。

イスラエルの第3代目の王ソロモンは、神殿建設を終え、その献堂式典で祈りました。

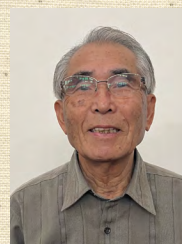
「あなたの民イスラエルの者でない異国人についても、

その人が……この宮に向かって祈るなら、あなたご自身が、あなたの御座が据えられた場所である天からこれを聞き、その異国人があなたに向かって願うことすべて、かなえてください。……」

(歴代史第二6:32-33)

今まだ教会の使命が残されています。

小浜キリスト福音教会
牧師 岡部光雄



感謝とご報告

- 本文 P1-2 で報告いたしましたように、吉田隆宣教師は、7月31日から8月5日までタイとミャンマーの国境にあるメサイ市に遣わされ、ミャンマー人の21人の牧師の訓練のために奉仕をいたしました。その後タイのチェンライ市のフルゴスベル教会で交わりの時を持ちました。
- 吉田隆 & 恵利子宣教師は9月9日から16日まで、インドネシアのジャカルタに行き、PAM(ペンテコステ宣教会議)参加とジャカルタJCF(ジャパニーズ・クリスチャン・フェローシップ)に奉仕しました。
- 今年、吉田隆 & 恵利子宣教師は宣教30周年と結婚40周年を迎えました。母教会である京都キリスト福音教会では、10月13日にサプライズ祝賀会が開催されました。
- 吉田隆 & 恵利子宣教師は、9月末と10月末に関東地方の教会でデピュテーションの機会を持ちました。また、その間にお世話になった奥山実師 & 篤師の宣教65周年祝賀会に出席いたしました。

祈りの課題 (以下の祈禱課題を覚えてお祈りいただければ幸いです。)

- 吉田恵利子師は、11月23日から12月5日まで大津・坂本のギャラリー楽心庵で第5回クリスマス個展が開催されます。今年はそれに続き12月10日から14日まで京都市の繁華街近くにある救世軍京都において初めてのクリスマス個展を計画しています。
- 吉田成就兄は、KBI(関西聖書学院)卒業後、4月末から

6月末までTICF(東京国際ナショナル・クリスチャンフェローシップ)のでインターンを務めた後、9月から大阪府八尾市の八尾福音教会でインターンの働きに就いております。

- バングラデシュに教会堂を6つ建設するための献金をお願いしました。その結果、10月末時点で593万円ほどが日本国内で捧げられました。一般的に海外送金が非常に難しくなっている中で、試行錯誤の中で、海外送金が行われ、10月末までに367万円以上をバングラデシュに届けることができました。7月末にバングラデシュの国政に大きな混乱が起き、いまだに政情が不安定です。また日本円が安くなっていることが問題とならないように。最初の会堂の建設が始まりましたが、安全に工事が行われ、第二の会堂も建設されるようにお祈りください。(このためにお捧げくださる方は、振替用紙に「バングラデシュのため」とお書き添えください。)
- 9月末日の時点で、グレイト・コミッションの残高がマイナス95,000円で経済的に非常に厳しい状況です。
- 吉田隆 & 恵利子宣教師の宣教30周年記念と結婚40周年を兼ねてイスラエル聖地旅行の計画が立てられています。しかし、イスラエル国内での戦争が終わらぬ状況が続いています。更に円安のため旅行が難しく、現在のところ、来年以降まで延期されることになりました。戦争の早期終了、政情の安定と旅費の予算が満たされますように。(このためにお捧げくださる方は、振替用紙に「聖地旅行のため」とお書き添えください。)